

令和5年6月 気仙沼商工会議所 景気動向調査 概要版

(令和5年度第1四半期：令和5年4月～6月期実績、令和5年7月～9月予測)

全業種値で業況は予測も含め上昇傾向。採算は若干改善を予測するも不透明

製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業・水産加工業に属する会員の中からそれぞれ6業種より20事業所ずつ合計120件を対象とし、うち101事業所(回答率84.2%)より回答。

調査項目は、①業況(自社)②売上額(建設業は完成工事(請負工事)額)③採算(経常利益)④資金繰り⑤従業員(含 臨時・パート)⑥経営上の問題点について調査を行った。

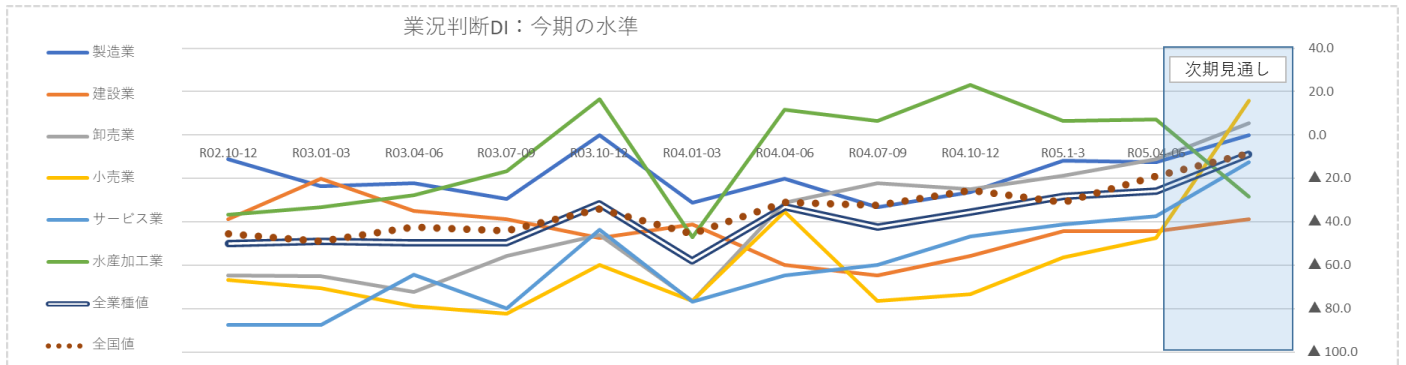
☆分析方法…【DIとは「増加(上昇、好転)」と答えた企業割合から「減少(低下、悪化)」と答えた企業割合を差し引いた値です。DIは0を基準としてプラスの値は景況が上向き傾向の企業割合が多いことを示し、マイナスの値は景況が下向き傾向の企業割合が多いことを示します。

＜前回値と比べ「好転↑」・「不変→」・「悪化↓」で表示＞

	業況DI			採算DI			従業員DI		
	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通	当期の水準	当期の前年同期比	前年同期比の次期見通
	4月～6月	昨年4月～6月と比較	7月～9月予測	4月～6月	昨年4月～6月と比較	7月～9月予測	4月～6月	昨年4月～6月と比較	7月～9月予測
全業種値	▲25.8 ↑	▲14.9 ↓	▲8.9 ↑	▲8.9 ↑	▲13.9 ↑	▲16.8 ↑	▲15.8	▲6.9	▲10.9
①製造業	▲12.5 ↓	▲18.8 ↓	±0.0 ↑	6.3 ↑	▲25.0 ↓	▲12.5 ↓	▲25.0	▲25.0	▲25.0
②建設業	▲44.4 →	▲44.4 ↓	▲38.9 ↑	▲16.7 ↑	▲22.2 ↑	▲38.9 ↑	▲11.1	▲11.1	▲16.7
③卸売業	▲11.1 ↑	11.1 ↑	5.6 ↓	11.1 ↑	11.1 ↑	▲11.1 ↓	▲16.7	5.6	▲5.6
④小売業	▲47.4 ↑	▲36.8 ↑	15.8 ↑	▲47.4 ↑	▲31.6 ↑	▲15.8 ↑	▲5.3	▲5.3	▲10.5
⑤サービス業	▲37.5 ↑	±0.0 ↑	▲12.5 ↓	▲43.8 ↓	▲25.0 ↑	▲12.5 ↑	▲43.8	▲31.3	▲31.3
⑥水産加工業	7.1 ↑	7.1 ↓	▲28.6 ↓	50.0 ↑	14.3 ↑	▲7.1 ↓	7.1	28.6	28.6

※従業員DIは、プラス値で過剰、マイナス値で不足を表す。

【業況判断(業況DI)】

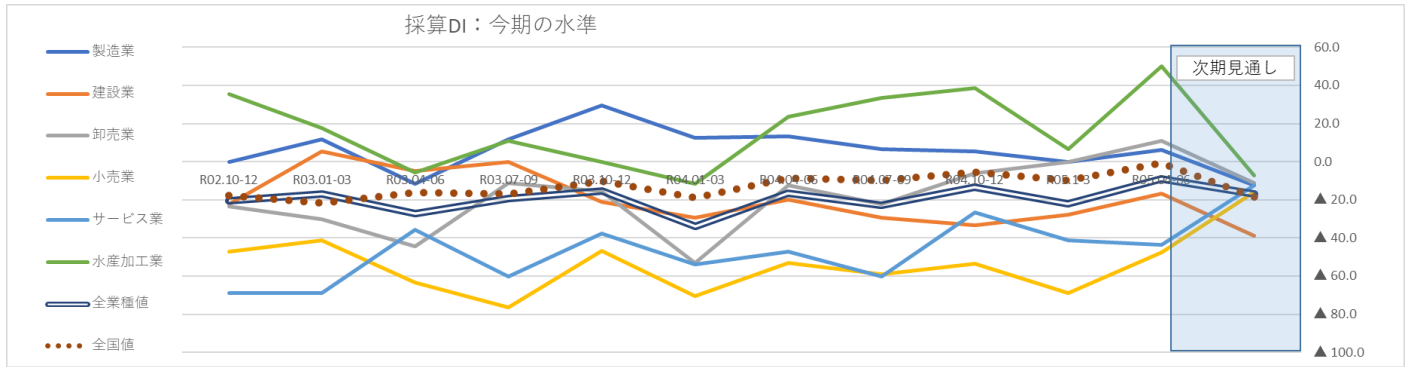


○業況DIの全業種値は、当期の水準が▲25.8、前年同期比が▲14.9であった。当期の水準の全業種値は3期連続でマイナス幅が縮小した。要因として、「昨年同等の受注内示を頂けた」「震災から10年が経過し、建物設備の劣化による切り替えの相談が増えた」「観光客の増加、インバウンドの気配」等の回答があった。

当期の水準を業種別で見ると、「小売業」▲47.4、「建設業」▲44.4、「サービス業」▲37.5を示す等、「水産加工業」を除く5業種で「マイナスを示し、DI値のマイナス幅は縮小傾向であるものの、依然として厳しい結果となった。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲8.9と、当期の水準よりマイナス幅は縮小し、業種別で見ると「水産加工業」では▲28.6と-34.5のDI値の減少を予測しているが、他の5業種のDI値は+11.4～33.4の改善を予測している。

【採算D I】

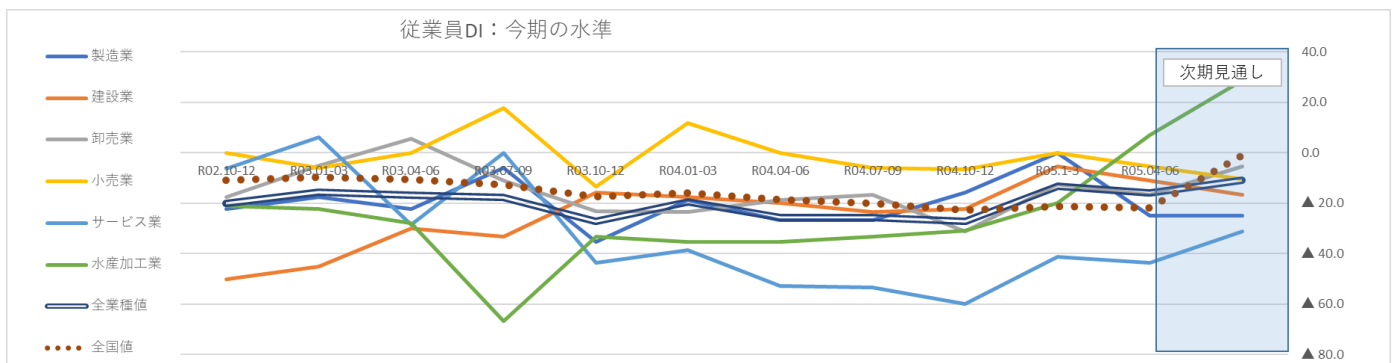


○採算D Iの全業種値は、当期の水準が▲8.9、前年同期比が▲13.9となり、当期の水準のD I値は「小売業」で▲47.4、「サービス業」で▲43.8を示す一方、「水産加工業」では+50.0を示した。前回値と比較すると「サービス業」で-2.6を示すものの、「水産加工業」+43.3、「小売業」+21.4を示す等、採算の改善を示した。自由意見からは、「コロナ緩和による交流人口の増加」「かつおの水揚げが比較的順調であること」「GWは忙しかったがその後は客足が減少」等の声があり、好影響ではあるものの、タイミングによる影響や、季節による変動が見られる意見が寄せられた。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲16.8となり、業種別で見るとD I値は「建設業」で▲38.9と悪化を示すほか、「全ての業種」でマイナスの値を示した。

また、「電気、水道、ガス料金の値上げ」「電子部品の不足」「材料価格等の上昇」等の経営負担の声があり、また「全体に値上げが行われていても単価を急に増加できない」「コロナ禍の間に需要の変化が生じ、以前のような消費形態に戻ることは難しい」「インボイス・電子帳簿保存法への対策」など、経営や制度への対応に苦慮していること、採算悪化の不安に対する意見が多数寄せられている。

【従業員D I】 ※従業員DIは、プラス値で過剰、マイナス値で不足を表す。



○従業員DIの全業種値は、当期の水準が▲15.8、前年同期比が▲6.9となり、不足を示している。業種別で見ると、「水産加工業」7.1と過剰を示すが、他の5業種では不足を示し、「サービス業」▲43.8、「製造業」▲25.0と不足を示し、特に「製造業」では前期比-25.0と不足が見られた。「人材不足、従業員の高齢化、熟練技術者の確保難」「市外への人口流出。若い人を留まらせる魅力的な仕事は無いかな」等の声がある一方、経営の問題点では「従業員の確保難」の項目が減少傾向にある。

○次期見通しについては、全業種値で前年同期比▲10.9となり、「水産加工業」では28.6と大きく増加する見通しであるが、「サービス業」で▲35.3、「製造業」で▲25.0と大きく減少を示しており、全体としては従業員の不足度合いは横ばいを予測している。

【経営上の問題点について】…問題点は各業種によって異なっているが、上位は「17.需要の停滞」44件(15.7%)・「6.原材料価格の上昇」38件(13.6%)・「9.原材料費・人件費以外の経費の増加」35件(12.5%)・「11.材料等仕入単価の上昇」32件(11.4%)・「8.人件費の増加」23件(8.2%)の順となった。(101事業所 回答280件・重複回答可)

〈製造業の主な問題点(回答17事業所)〉

「6.原材料価格の上昇」が13件(81.3%)と突出して多く、「9.原材料費・人件費以外の経費の増加」が6件(37.5%)、「16.需要の停滞」が5件(31.3%)と続いた。

〈建設業の主な問題点(回答18事業所)〉

「3.資材・材料価格の上昇」が14件(77.8%)と最も多く、「16.民間需要の停滞」が12件(66.7%)、「15.官公需要の停滞」が9件(50.0%)と続いた。

〈卸売業の主な問題点(回答15事業所)〉

「10.仕入単価の上昇」が13件(76.5%)と最も多く、「8.人件費以外の経費の増加」が9件(52.9%)、「7.人件費の増加」が6件(35.3%)と続いた。

〈小売業の主な問題点(回答16事業所)〉

「16.需要の停滞」が10件(52.6%)と高く、「9.人件費以外の経費の増加」「11.仕入単価の上昇」がともに8件(42.1%)と続いた。

〈サービス業の主な問題点(回答17事業所)〉

「8.材料等仕入単価の上昇」が9件(56.3%)と最も多く、「11.従業員の確保難」が8件(50.0%)、「7.利用料金の低下・上昇難」が5件(31.3%)と続いた。

〈水産加工業の主な問題点(回答15事業所)〉

「6.原材料価格の上昇」が11件(78.6%)と最も多く「9.原材料費・人件費以外の経費の増加」が7件(50.0%)、「8.人件費の増加」が5件(35.7%)と続いた。

その他(主な回答を抜粋)

製造業	<ul style="list-style-type: none"> 電子部品の不足 電力料金の値上げ サンマ漁獲量4年連続で過去最低で漁船の減少が懸念される 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体を中心とした部品の入荷が遅い 製造部及び労務職に若い力を求めている
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 人材不足、請負単価の上昇難 官民共に工事案件が減少し受注競争も激しい 漁業全体の不振に引きずられる形で工事内容が減る事も増えてきている 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の確保や熟練技術者の確保が難しい 支払いサイトが長く、資金繰りに苦慮
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> インボイス対応への不明点が多い 漁船が活動すれば漁船が消費する物資の販売も増加します 温暖化により、原料とする海藻が減産傾向にあり単価が高騰 	<ul style="list-style-type: none"> 輸入商品の納期遅れ、価格上昇
小売業	<ul style="list-style-type: none"> コロナ5類移行に伴い、人流の増加 従業員の高齢化や働き方改革等の時代の波 ネット世代のニーズと旧来取扱品のねじれがあり、思うように売り上げに繋がっていない 	<ul style="list-style-type: none"> ホヤチケXの再開にも期待 観光客の増加、インバウンドの気配
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 宴会等が戻りつつあるが、コロナ前ほどではない 老朽化によるメンテナンス増と従業員不足により受入制限せざるをえない 従業員の確保難。電気料の高騰。仕入の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み、お盆での利用客に期待する バス利用者がやや戻ってきている
水産加工業	<ul style="list-style-type: none"> 水揚げされる水産資源種の減少 かつおの水揚げが比較的順調であるところ コスト転嫁すると商品の選別にあつて結果売り上げ減になる事が予想される 	<ul style="list-style-type: none"> 原材料価格が上昇して利益を圧迫している 電気、水道、ガス料金の値上げ